

令和7年度 総括評価表

(評定) A: 十分達成できた, B: 概ね達成できた, C: 達成できなかった 徳島県立城ノ内中等教育学校 後期課程

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
リーディング ハイスクール ル事業の推 進① 中高一貫教 育の推進	(全校レベル) 中等教育学校のメリ ットを最大限に 活かし、本校の活 性化に役立てる。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満 足している」と答えた生徒・保護者が90%以 上。 ○「前期生と後期生の関係は良好である」と 答えた生徒が70%以上。 ○「前期、後期が連携したPTA活動は活発 である」と答えた保護者が80%以上。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」 と答えた生徒94%(+6p)・保護者96%(+2p))。 ○「前期生と後期生の関係は良好である」と答えた生徒 78%(+6p)。 ○「前期、後期が連携したPTA活動は活発である」と答 えた保護者が79%(+4p)。	総合評価 A (評定)  (所見) 今年度のPTA関係の行事は、当初の計画通 り実施することができた。  前期生と後期生の良好な関係の構築に取り 組んできた。中等教育学校へのスムーズな移 行がなされており、一体感が醸成されている。  体育祭や文化祭など、大きな学校行事での 全学年の交流ができてきているのは良い。1年生 が6年生でやっていることを実際に見て、6年 間の全体像がイメージできることは中等教育学 校の利点である。  総合的な学習／探究の時間を通じた異学年 交流が可能になった。	○6年間の接続を追求 していくことが大切であ る。  ○生徒、保護者とも高 い数値が出ているの は、満足度が高い証拠 である。高い評価を発 展させることは難しい。 今後はパワーを下げな がら維持していくこと が必要である。  ○今年度から導入した 45分授業の成果、総 括が未反映となってい る。満足度だけでなく 、学力・意欲・時間創出 の効果検証が必要であ る。  ○「探究ゼミ」は本校の 目玉となるので、取組 をもっと保護者へもア ピールしてほしい。	○前期と後期のPTAがさらにお 互いに協力して行事等を実施で きるように努める。  ○中等教育学校へのスムーズな 移行がなされており、一体感が醸 成されている。今後、合同での行 事を増やしさらに交流を深めたい。  ○今年度は「探究ゼミ」の実施回 数が2回だけだった。実施回数を 増やすと同時に発表会等を通じ て異学年の交流を進めたい。  ○今年は特に退職校長が前期の 授業に非常勤講師として来てく れ、後期課程の教員が授業時数 を増やして教える状況が短期間 で済んだのは有難かった。しか し、今後も人手不足は深刻な状 況になることは予想され、中等 教育学校としての体制の維持・ 充実をどうやって実現していく かを考えたブラッシュアップが 必要である。
	(下位組織レベル) 前期生と後期生の 良好な関係構築。 前期・後期の教職 員の緊密な連携に よる組織の活性 化。 前期、後期が連携 したPTA活動の充 実。	活動計画 ①前期・後期の教職員合同の会議を年25 回以上、PTA役員会を年4回以上開催す る。 ②前期、後期合同の行事・作業・部活動・交 流を行う機会を積極的に設定する。 ③中等教育学校の体制をブラッシュアップし て行く。 ④前期・後期合同、全教員による「探究ゼ ミ」を開設する。	活動計画の実施状況 ①合同のPTA役員会を4回開催し、共通理解を図った。  ②体育祭や文化祭、また、予餞会や総合学習・探究で の発表会などでは全学年が交流できている。  ③今年度は前期課程において年度途中で非常勤講師が 必要になり、体制を維持することに時間とエネルギーが 割かれた。 ④2～6年生合同、全教員による「探究ゼミ」を1学期に 2回実施した。上級生による活動発表や各学年での進 捗状況を報告しあった。			
リーディング ハイスクール ル事業の推 進② 確かな学力 と進路観の 育成	(全校レベル) 授業の充実改善 に積極的に取り組 み、全生徒の進路 希望実現を目指 す。	評価指標 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」 と答えた生徒・保護者・教職員が90%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫 している」と答えた教職員が90%以上。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路 指導ができている」と答えた生徒・保護者が 90%以上。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについて よく相談のしてくれる」と答えた生徒・保護 者が90%以上。	評価指標による達成度 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生 徒93%(+2p)・保護者90%(+5p)・教職員100%(+13p)。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」 と答えた教職員が100%(±0p)。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができ ている」と答えた生徒92%(+5p)・保護者82%(-1p)。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談に のってくれる」と答えた生徒95%(+4p)・保護者81%(-3p)。	総合評価 B (評定)  (所見) 県内で活躍する起業家を招いてキャリア育成 に関する講演会等を実施した。また、総合学習 ／探究の時間を通じて様々な分野の専門家か ら話を聞いた。生徒の感想文などからも、内容 については概ね好評であった。今後も情報収 集に努め、各学年の要望に合致した講師を探 すことが求められる。  進路指導に関わるアンケート項目については 昨年度と概ね同様であるが、生徒の数値の上 昇に対して保護者の数値の低下がみられる。 今後も生徒の希望を尊重した個に応じたきめ 細やかな進路指導を心がけていく一方で、家 庭との連携、情報共有をより一層すすめる必 要がある。  学年集会、進路講演会などは、概ね計画通り 実施することができた。内容については概ね好 評であったが、多様化する進路希望に対応す るためにも今後も情報収集に努め、各学年の 状況や要望に応じた講師を確保することが求 められる。	○教職員の数値が高 いのは、モチベーショ ンの高さである。先生方 の意識の高さがうかが える。非常に素晴らしい ことだ。  ○「教員はわかる授業 を目指して授業を工夫 している」という質問に 生徒を入れ生徒からの 評価も受けるべきであ る。  ○保護者の数値が低 いのは期待の表れであ るが、数値が下がって いる項目については原 因を追及し改善策を検 討する必要がある。	○自主性・主体性を育成するた めの教育活動を進めることが肝 要である。  ○小論文、面接等で個別指導を 希望する生徒への対応法や、探 究活動の充実などベテランのノウ ハウを若手に引き継ぎ、持続可 能な指導体制の構築とブラッシュ アップをすすめる。  ○進路指導課だけではなく、学校 全体として新しい入試に対応して いく。組織的な進路指導体制の構 築に向け、各種進路情報の発信 や面接・小論文指導等の役割分 担を進め、組織全体の指導力の 向上を目指す。  ○大学や大学院での学びを講演 や体験により、6年間を通じた学 校での日々の授業がその土台に なる事を再確認し、授業を大切 に取り組む姿勢の醸成を図る。
	(下位組織レベル) よりよい指導計画 や指導方法の工夫・改善。 全ての教師集団 の協力による組織 的な進路指導体 制の構築。 確かな進路観や 職業観の育成。	活動計画 ①研究授業・授業研究会を前期、後期・合同 で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③キャリア形成と進路に関する学年集会や 講演会及び大学講師等による出張講義を 実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施す る。	活動計画の実施状況 ①授業公開週間を1学期と2学期に実施した。  ②授業評価を年2回実施した。  ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・進路講演会(4年1回、5年1回、6年1回)  ④学習実態調査(4年5回、5年5回、6年4回)と、各学 年とも年2回の進路希望調査を実施した。			

令和7年度 総括評価表

(評定) A: 十分達成できた, B: 概ね達成できた, C: 達成できなかった 徳島県立城ノ内中等教育学校 後期課程

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
人権教育の 推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒が85%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒93%(+2p)・保護者90%(+2p)・教職員100%(±0p)。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒92%(+4p)。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒90%(+4p)・保護者94%(+4p)・教職員97%(±0p)。	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) すべての評価指標において、90%以上の達成率を示した。 日常の教育活動に人権教育の視点を体系的に位置付けるとともに、人権学習ホームルーム活動や関連行事において「ねらいの明確化」と「振り返りの充実」を徹底したことが、成果につながったと考えられる。 今後は、自己肯定感の育成を基盤に、他者を尊重する態度や人権感覚の深化を図るとともに、保護者啓発と教職員研修の一層の充実を進めていく必要がある。	○生徒の数値が高く、自他共に大切にすることが育まれていることが見て取れる。  ○さらに自己肯定感を育成できるように努めてほしい。  ○いろいろな角度から生徒一人ひとりに光を当てている。いろいろな活動がある意味が見られる。成功体験を積み重ねることが大切である。	○当事者意識を持たせる人権学習ホームルーム活動ができるよう、研究協議や事前研修を充実させる。  ○定期的に実施している学校生活に関するアンケート調査等の結果を活用して生徒の悩みなどを把握し、迅速に対応できる体制を整え、いじめをはじめとする人権問題の未然防止と早期発見・早期対応を実行する。  ○すべての教育活動の中で、生徒が抱えている課題や配慮すべき事柄への気付きと情報を教職員間で共有し、生徒の自己肯定感を育むことができるよう留意する。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実。	活動計画 ①人権ホームルーム活動の研究授業・研究協議、事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回、校外で年1回実施する。	活動計画の実施状況 ①各年次で研究授業・研究協議を実施するとともに、毎回、事前研修会を年次別に実施した。 ②3年生及び後期生を対象に人権教育意見発表会を実施した(3年生も後期生の発表を聴講)。 ③5年次生対象に人権問題講演会を、また4年次生対象に「WAKU WAKU 新生活セミナー」を実施した。 ④前期・後期合同の教職員研修会を校内で年2回実施した。			
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、いじめを絶対許さない姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。	評価指標 ○生徒一人あたりの遅刻回数が、昨年度より減少している。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒・教職員が75%以上。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒・保護者・教職員が75%以上。 ○自転車安全カード(警告書)の交付数が、昨年度より減少している。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者84%(+2p)・教職員100%(+3p)。生徒一人あたりの遅刻回数は、昨年度1.8回に対して今年度1.7回であった。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒74%(+10p)・教職員79%(+4p)。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒86%(+6p)・保護者92%(+4p)・教職員97%(+3p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーを守っている」と答えた生徒78%(+5p)・教職員90%(+2p)。自転車安全カードの交付数は、昨年度4件に対して今年度9件。	総合評価 (評定) <b>B</b> (所見) 「基本的な生活習慣の確立や家庭との連携」についてのアンケート結果はまずまず良好で、落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒一人あたりの遅刻回数はやや増加した。「挨拶」については生徒の評価指標が未達成であるものの昨年と比較し、かなり改善されてきている。  「服装頭髪についての校則が守られているか」については、生徒と保護者・教職員の間には若干差異はあるものの高い水準で評価指標を達成した。  「いじめ防止」については、アンケートを定期的に実施し、早期発見・対応に努めた。しかし、アンケートではすくいとれない場合もある。授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報共有を徹底するなど、継続的な取組が必要である。  「登下校時の安全、特に自転車通学」については、交通違反警告書の交付数が増加した。来年度は青切符の導入も始まるので、これまでに以上に指導を徹底する必要がある。	○生徒の数値も向上しており、後期になると挨拶ができる生徒が増えていると感じる。生徒会の呼びかけや教職員の統一的な取組が重要である。  ○重点目標と評価指標が一致していない箇所がある。SNSトラブルやいじめに関する評価指標を入れるべきである。目標に対応した評価指標の再設計と設問の具体化が必要である。  ○基本的な生活習慣の確立は、学校だけではできない、家庭と連携して取り組む必要がある。	○挨拶は生活の基本的なコミュニケーションツールである。生活委員・生徒会役員の「あいさつ運動」を継続し、挨拶の大切さを周知するとともに、互いに挨拶が交わされる環境づくりに努める。  ○5分前行動を心がけさせ、時間を厳守させる。多遅刻者には生活習慣の見直しなど家庭と連携して個別指導を行う。  ○服装頭髪指導については、集会時などの検査だけでなく、清潔感のある着こなしの必要性を理解させ、日常的に心がけさせる。大きく逸脱したケースでは、保護者とも共通理解をはかり、家庭との連携を密にした指導を続ける。  ○いじめに関するアンケートの実施等を通して、積極的な認知と初期段階での適切な対応に努める。  ○夜間における無灯火運転の厳禁やヘルメットの着用など、交通ルールの厳守と交通マナーの向上に努める。
	(下位組織レベル) 挨拶が交わされる環境づくり。服装頭髪指導の徹底。交通ルール・マナーの遵守・向上に向けての取組推進。いじめの積極的な認知と対応。	活動計画 ①遅刻者は職員室で「遅刻指導票」を記入し提出。遅刻理由を確認しその都度指導する。多遅刻者には家庭と連携して改善を図る。 ②学校安全の日などに生徒会役員・生活委員が朝のあいさつ運動を実施する。 ③服装頭髪検査を定期的実施する。 ④交通ルールの遵守、マナーの向上のため交通安全教室の実施や集会時の注意喚起をする。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施する。	活動計画の実施状況 ①遅刻者は、登校後「遅刻指導票」を教頭に提出する。教頭が遅刻理由を聞き取り、指導を行った。その後、HR担任・教科担任により遅刻者の確認および指導を行った。 ②20日と「5」のつく日に生活委員、生徒会役員が登校時校門前であいさつ運動を行い、ヘルメット着用の啓発に努めた。 ③学期はじめに、学年ごとに実施した。 ④毎月の学校安全の日(20日)には、登校時に教職員による立哨指導を実施し、今年度は特に交通ルール違反等についての啓発を行った。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施した。内容に応じて担任が聞き取りを実施した。			

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
				評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。また、ICTの積極的な活用に努める。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○防災クラブを中心に、積極的に防災活動に取り組む。(有志での参加者数が18人以上(各学年3名以上)) ○防災クラブと防災委員会が連携した活動。 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まった」と答えた生徒・教職員が60%以上。 ○「生徒は環境や地域に配慮した行動(マイボトル・バッグの使用や食品ロス削減、地産地消など)を心がけている」と答えた生徒が70%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員が80%以上。 ○「授業において、タブレット端末や電子黒板が活用されている」と答えた生徒が80%以上。	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒88%(-1p)・保護者88%(+3p)・教職員100%(±0p)。 ○防災クラブとして、23名のクラブ員が積極的に防災活動に取り組んだ。 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まっている」と答えた生徒82%(+7p)・教職員90%(-1p)。 ○「生徒は『エシカル消費』を意識し、マイボトル・バッグの使用や地産地消などの具体的な行動を心がけている」と答えた生徒70%(+7p)。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員72%(-6p)。 ○「授業において、タブレット端末や電子黒板が活用されている」と答えた生徒が84%(+15)。	総合評価 (評定) <b>A</b>	○取組は概ね順調である。このまま継続推進してほしい。 ○普段の生活がエシカル消費に繋がっているため、普段からの意識付けが大切である。 ○時間外勤務の縮減は、国全体で一般企業にも広がる見込みである。重要課題であり、統計的可視化が重要である。	○防災クラブと防災委員会の活動内容を見直し、有用な活動ができるようにしていきたい。また、より多くの生徒が防災について考えて、行動ができる方法を模索し、実施していきたい。 ○主権者教育については、公民科の授業やHR活動、学校行事を中心に、より視点を明確化するとともに、指導内容や方法を改善し、より実効力のある取組を推進する。 ○引き続きエシカル消費の推進に取り組み、より多くの生徒が人や環境、地域に配慮した行動ができるよう、実践力の向上を図る。 ○引き続き「勤務時間インターバル」を意識し、時間外勤務の縮減に励みたい。 ○教育DX推進事業(国指定)において整備された城ノ内LABを最大限に活用し、デジタル人材育成に努める。
	(下位組織レベル)	防災意識の高揚と防災への取組の推進。関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育の充実。「勤務時間インターバル」を意識した、勤務の効率化の推進。生徒1人1台端末を積極的に活用した授業の充実。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)等を年2回以上実施するとともに、防災クラブの活動(単独活動15回以上、防災委員会との共同活動3回以上)の充実を図り、成果を全体に広める活動を実施する。 ②年次集会等において、選挙や政治参加の意義について講話を行う。 ③授業や総合的な探究の時間等で「SDGs」や「エシカル消費」に関する知識技能の習得に取り組む。 ④教員の意識改革と業務の効率化を促し、業務改善に取り組む。 ⑤ICTを活用し、積極的な授業改善に努める。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練は年2回実施できた。防災クラブの活動も15回することができた。ただし防災委員会との活動はできなかった。地域住民との連携についても昨年度と同様に実施することができた。 ②各年次において、主権者教育についての講話を実施した。また、5年次生対象に徳島市選挙管理委員会職員を講師に迎え出前授業と模擬投票を行った。 ③普段の授業だけでなく、エシカルクラブや学校行事においても「SDGs」や「エシカル消費」を啓発する活動に取り組んだ。また校外のイベントへの参加や企画・運営にも取り組んだ。 ④教職員に時間外勤務の縮減を呼びかけ、教職員個々の工夫並びに組織対応による業務の効率化に取り組んでいるが、行事の精選等については不十分である。 ⑤授業公開日に積極的にICTを活用し、授業改善に取り組んだ。	(所見) 生徒・保護者・教員のほとんどが、防災意識の高揚と防災への取組を推進していると回答していることから、本校の防災に関する取組は一定の評価を得ているが、一番意識してほしい生徒がマイナスとなっている点については、改善が必要である。また、防災クラブは定期的に活動でき効果がある一方で、一部の人だけの活動となっており、活動を全体に広げられるような対策が講じていきたい。  主権者教育については、機会を捉えた指導を行った結果、評価指標において、80%以上の達成率を示した。  昨年度よりエシカル消費の推進に向けた、具体的な行動を心がけている生徒の割合が増加した。校内での活動にとどまらず、校外での活動に取り組む生徒も増えてきた。  「勤務時間インターバル」のモデル校とし、毎月の勤務時間を集計することで、教員の意識改革に努めた。  効果的なタブレット端末活用における授業改善について、事例の紹介と教員研修の実施により、個別最適な学びと協働的な学びに取り組む。		
環境教育の推進	(全校レベル)	環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	評価指標 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が85%以上。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒91%(+3p)・教職員93%(-1p)。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒86%(+6p)・教職員90%(-4p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>	○4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に説明し、普段から生徒に清掃の意義を伝えながら、主体的に清掃活動に取り組むよう指導する。	
	(下位組織レベル)	清掃への積極的な取組。ゴミの分別や節電・節水への取組。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①学校祭などでは大量の段ボール等の廃棄があるが、生徒が主体的に分別を実施した。 ②水道、電気の使用量をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識の高揚につなげることができた。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回取り組んだ。	(所見) 日々の清掃活動から清掃ボランティア活動まで生徒は比較的に真面目に取り組んでいる。また、委員会活動を通して、節水・節電を呼びかけを行い、意識の高揚につなげることができた。 しかし、清掃時以外では、落ちていたゴミを積極的に拾うといったちょっとした清掃が出来ていないと言いたい。	○ゴミの分別や節電・節水については、教職員がこまめにチェックし、その都度気付いたことを注意しながら生徒のより一層の意識改善に向けた働きかけを行う。  ○整美委員や保健委員が発行する。「環境・保健新聞」をさらに充実させる。	

令和7年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった 徳島県立城ノ内中等教育学校 後期課程

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事や部活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者が75%以上。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒・教職員が75%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒94%(+4p)・保護者91%(+2p)・教職員97%(+3p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒94%(+6p)・保護者85%(-1p)・教職員83%(+8p)。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒78%(+6p)・教職員90%(+9p)。	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) 本年度の活動を通して、生徒が主体性を発揮する場面が多く見られた。城ノ内祭をはじめとする学校行事には、生徒会を中心に多くの生徒が関わり、学校全体で行事を実施することができた。 部活動は団体運動競技部の運営に苦心している面があるが、個人種目等を中心に、好成績を残した部もある。また、入部率は90%を超えており、文化部、運動部を問わず、多くの生徒が放課後や休日の活動を楽しんでいる。 生徒会や委員会等の活動については、「生徒会新聞」「人権通信」等の発行や、防災クラブ、挨拶運動等それぞれに様々な活動を行っている。特に生徒会は学校行事の大部分を担い、文化祭、球技大会、予餞会などの各種行事に積極的に取り組み、学校生活の活性化に大きく貢献した。	○学校行事が充実し、部活動や委員会活動が活発であることは、数値として表れている。 ○1年生から6年生までが一緒に活動している部もあり、6年間でスパンとして異年齢と交流ができることが強みである。 ○45分授業への移行で特別活動・委員会活動の活性化に良い影響が出ている可能性がある。そのエビデンスの整理が課題である。	○今年度は体育館改修の影響で学校行事を例年と違う形で実施したものがあつた。次年度は、それらの良い面も引き継ぎながら、学校行事を進化させていく必要がある。 ○部活動においては、中高一貫校の強み生かした、より一層の活性化が必要。 ○生徒会活動や委員会活動については、生徒の主体的な活動につながるよう、それぞれの活動をさらに充実させる。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実。 部活動の活性化。 部活動と勉強の両立。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③部活動の効率化や考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。 ④生徒会委員会活動を活発化させる。委員会活動の計画や反省ができるような時間を設ける。	活動計画の実施状況 ①文化祭、球技大会等において、生徒会が中心となり、生徒の意見を取り入れながら主体的に実施できた。 ②生徒・保護者とも80%以上が活発であると回答しており、全国大会で好成績を収めた部もある。 ③考査発表後から考査終了まで、試合等が近い部に限り1時間に制限し実施した。 ④各委員会がそれぞれに計画を立て、活動した。各学期毎に委員会を開催し、課題の抽出と、その改善に努めた。			
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページを充実し、学校を公開する機会をつくる。また、地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が90%以上。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は、本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者91%(+4p)。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は、本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者95%(+2p)・教職員93%(-4p)。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒84%(+10p)・保護者86%(+5p)・教職員97%(±0p)。	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) ホームページの更新は頻繁に行われアクセス数も多かったが、全教職員が関わり、かつ週2回以上の更新には至らなかった。 生徒の興味・関心に基づく探究活動を、4年生ではグループで、5年生では個人で行った。多くの場合が進路に繋がるものであつた。 今後も保護者や地域の期待に応えられるよう、中等教育学校としての特色ある教育活動をあらゆる機会を通じて発信していく必要がある。	○次年度への課題に行事予定への書き込みや更新作業が遅れたとあるが、保護者からは今年度はホームページの更新が早く様々な行事をアップしてくれ大変有り難かつたという意見がある。今後も継続してほしい。 ○情報発信は好評で学校に対する理解促進に繋がっている。今後は更新体制と負担軽減、情報の埋没対策が課題である。	○今年度は本校行事予定への書き込みや更新作業が遅れてしまい、迷惑をかけてしまった。課内での役割分担の徹底と声かけを一層強め、誰もが使いやすく、広報に資するホームページの運用を行っていきたい。 ○学校公開に合わせて「探究フェス」を実施した。多くの保護者に来場していただき、発表を聞いていただいたが、発表順や場所について保護者に周知仕切れていないことがあつたので、次年度の課題にしたい。 ○学校公開の日や文化祭など、本校の教育活動を直接理解してもらえる行事について、可能な範囲で公開できるよう、開催方法や内容を工夫し、充実を図る。
	(下位組織レベル) ホームページ等を通じた情報発信の充実。 学校公開の機会の充実。 地域に根ざした体験活動・行事の実施。 学習成果の発表、外部の人材や教育機関等との交流機会の充実。	活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②スクールガイドを充実させる。 ③総合的な探究の時間の活動内容を充実させる。 ④ゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①システムの刷新が行われ大幅な改修が行われたが、問題なく運用できた。多くの教職員が更新を行うことができた。 ②昨年に引き続き、6年間の教育活動がよくわかるように内容の充実を図った。□ ③6年間を通じた総合的な学習／探究の時間を刷新した。学校公開に合わせた探究フェス、総合発表の場として探究グランプリを実施した。 ④地域の課題を解決するための探究活動を行い、その過程で多様な地域連携を行った。ゴルフ研修も例年通り実施した。			